



慶應義塾大学ビジネス・スクール

初めてケースを書くその前に

5

1. ケースを書くことになりました。とにかく何から始めたら良いですか？
2. 事実を集めるとケースになりますか？
3. ケースを作るのに必要な情報はどのように集めれば良いですか？
4. 情報をどう組み立てたら良いケースになりますか？
5. ケースライターはディスカッションリーダーを必ず務めるべきですか？

10

冷房の効いた図書館の窓から、原嶋裕子はレポート書きに一区切りをつけて、ぼんやり外を眺めていた。MBAの2年目の夏休みである。なんとなくメールをチェックしていると、同期の佐藤から「研修の依頼」というメールが飛び込んできた。

15

佐藤渉はある中堅企業で経営企画部に在籍している。去年MBAに入学した同期である。メールは、社員教育でケースメソッドを使った研修をやりたいので、自社情報を使ってオリジナルにケースを作ってほしいという。年内には実施したいそうで、来週には取材のための時間も設けたとあった。原嶋が、長年ケースメソッド教育をしてきた伊藤秋夫教授のゼミに所属していることから、白羽の矢が立ったのだろう。「確かにケースメソッド授業は何度となく受けてきたものの... ケースを書くなんて発想もなかったし...」原嶋は不安を感じつつも、思案するより伊藤教授のもとに行くことにし、研究室のドアをたたいた。

20

1. ケースを書くことになりました。とにかく何から始めたら良いですか？

25

研究室に行くと、机に向かう先生の後ろ姿がいつものようにそこにあった。学生が訪ねていくとすぐに作業の手を止めて迎え入れてくれる。その日も珈琲とお菓子を用意して待っていてくれた。

このノートは高木晴夫、鶴ヶ谷理子、漆間聡子、高取剛充が作成した。編集途中で近藤千尋氏より支援を受けたことに感謝する。

本ケースは慶應義塾大学ビジネス・スクールが出版するものであり、複製等についての問い合わせ先は慶應義塾大学ビジネス・スクールまで（〒223-8526 神奈川県横浜市港北区日吉4丁目1番1号、電話045-564-2444、e-mail:case@kbs.keio.ac.jp）。慶應義塾大学ビジネス・スクールの許可を得ずに、いかなる部分の複製、検索システムへの取り込み、スプレッドシートでの利用、またいかなる方法（電子的、機械的、写真複写、録音・録画、その他種類を問わない）による伝送も、これを禁ずる。ケースの購入は<http://www.bookpark.ne.jp/kbs/>から。

30

Copyright © 高木晴夫、鶴ヶ谷理子、漆間聡子、高取剛充（2018年6月作成）